

M O N T H L Y **vol.33** U P

CTPによって変化する印刷プロセス。



スピード、品質、 そして全体業務の効率化。 CTPに課せられた使命です。

DTPは完全に定着し、現在印刷産業はCTPが浸透しつつあります。
今回は、プレートセットの動向と、
変わりつつある印刷工程についてご紹介します。

1995年、ドイツで開かれた印刷と紙の国際総合機材展「DRUPA(ドリュッパ)」以降、印刷の世界ではCTPが浸透しつつあります。CTPとは「Computer To Plate」の略で、印刷するためのデータをコンピュータからプレートセットという機器に送り、直接刷版を作る仕組みのこと。従来のフィルム出力から、刷版の焼き付けといったアナログ工程を省略することができ、印刷の前工程のスピードアップを図ることができるのです。また、これまでの刷版では飛んでしまっていた5%以下のアミ点が、1~2%まで再現可能になり、極細線や細かいグラデーションも表現できるようになりました。焼き付けの見当精度も高く、印刷物の品質も向上。その他、フィルムレスによる省資源化などのメリットもあります。

CTPが普及するにつれて、プレートセットなどの機器も賑わいを見せるようになってきました。例えば、サーマルCTPとバイオレットCTPのせめぎ合い。サーマルCTPとは、赤外線レーザー技術を使用して刷版を作成します。現在、最も一般的なこの方式は高解像度で安定性に優れ、明るい部屋での作業、保管が可能です。一方、バイオレットCTPは価格の安い銀塩プレートを使用、寿命が長くメンテナンス費を抑えることもできるため、コストパフォーマンス面に優れています。この方式は、露光に波長の短いバイオレットレーザーを使用しているため、プレートセットの

各機構を小型化できます。そのため、モーターの回転数を上げることができ、高速出力が可能になるのです。しかし、その反面バイオレットCTPで作成された刷版は、自然光で感光してしまうため、明室での作業や保管ができません。

その他にも、従来の刷版の焼き付けに使われていたPSプレートを使った、CTCP(Computer To Conventional Plate)という技術も登場。いよいよCTP時代が到来しようとしています。

もちろんCTPも、まだまだ課題を抱えています。スピードアップやフィルムレスといったCTPのメリットを活かすためには、DDCP(Direct Digital Color Proofer)やカラープリンタによる色校正が必要。そのためには、色を同一基準のもとで管理・運用していくカラーマネジメントが重要になってきます。またCTPの導入は、制作工程のデジタル化をより一層推進。これまでの作業環境では、対応が難しくなっていることもあり、データの流れや管理から、校正、検版方法まで、効率的なデジタルワークフローへと変化が求められています。

いま印刷産業は、さらなる品質向上やニーズの汲み上げを目指し、IT技術と融合した業務全体の最適化へと進んでいるのです。





<http://www.sezax.co.jp>

本社・工場	〒146-0091 大田区鶴の木2-9-7	TEL03(3758)2511(代)	FAX03(3758)2754	
		営業専用	FAX03(3758)2544	
渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F	TEL03(3400)9211(代)	FAX03(3409)7315	
		5F	TEL03(3400)9401(代)	FAX03(5468)9253
マニュアル企画部	〒146-0091 大田区鶴の木2-9-7	TEL03(3758)2591(代)	FAX03(5482)2777	
下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	TEL03(3758)2511(代)	FAX03(3758)8850	

株式会社セザックスクリエイティブ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL03(3409)4970(代) FAX03(3409)2732

株式会社セザックスインターナショナル

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL03(3409)0527(代) FAX03(3409)6610



この小冊子には環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

この小冊子は再生紙を使用しています。